

金融商品

京都府・京都府立洛北高等学校附属中学校 3年 諸富 純

ゼロ金利やファンドといった経済用語と呼ばれるものが新聞の紙面を賑わしている中、我が家の前に立ちはだかった壁がある。それが金利だ。

ある晩、両親が何やら深刻そうに相談している姿を見つけた。どうしたのかと思って聞いてみると、

「家の住宅ローンの満期がきて、固定金利にするか変動金利にするかを迷っている。」

という答えが返ってきた。よく考えてみると、毎日住んでいる家でありながら、ローンの事も何も知らない事に気づいた。中学3年になって授業を受けてから、経済が私の好きな科目になった事もあったので、私も自分なりにこの問題を考えてみることにした。

まずローンという言葉だ。この言葉は日常生活でとてもよく聞く言葉だが、実際にきちんとした意味を理解しているかといえばあまりそうとはいえない。ローンは一口に言うと、融資、つまり私たちにとっては借金といわれるものだ。普段私たち子供の中には借金は絶対にしてはいけないというイメージがあるが、社会人になると家を買う、自動車を買うなど、まとまったお金が必要となってくる時がある。その時に利用されているのがローンだ。ローンの利点は、お金を借りても一括払いではなく少しずつ返せるというところにある。よって多くの家庭では、住宅を買う時にローンを利用しているのだ。

しかしここで忘れてはならないのは、ローンが借金だという事。お金を借りた時には必ず利子、ここで言う金利がついてくるという事だ。

金利にはいくつかの種類がある。まず短期金利と長期金利だ。この二つは返済期間の違いで分類される。短期金利は期間が1年以内の金融商品に適用される金利の事で、それ以上の場合が長期金利となる。それぞれの特徴は、短期は日本銀行の金融政策に左右され、長期は短期金利の推移などの予想が大きく関わる事だ。この二つは各自選ぶ事ができる。

そしてもう一つの分け方が固定金利と変動金利だ。固定金利は預入時の金利が満期まで変わらず適用されて、変動金利は預入後も半年後や1年毎に金利を見直す事がで

きる。したがって今後の金利がどのように推移するかの予想が、この二つを選択するポイントになってくる。一般的にこれから金利が上昇していくと考えられる場合は、現在の低金利を満期まで享受できる固定金利が有利になり、反対に金利が低下していくと考えられる場合には、金利の波に乗る事ができる変動金利が有利となるのだ。しかし固定金利の場合、一番初めの金利は高めに設定してあり、更に手数料もかかる。そしてこの時返済期間が長期になればなるほど、金利は高くなっていく。これも両親が悩んでいた大きな理由だ。

ローンを組む時に、この二つの分け方からそれぞれどちらかを選ぶ事になるのだ。

10年前この家を買った時、両親を選んだのは長期固定金利。その当時、これから景気は良くなっていくだろうと予想されていた。景気が良くなるという事は、金利が上がってくると考えられる。なぜなら金利を上げるのは世の中のお金を減らし、物価の上昇を防ぐためだからだ。同様に金利を下げる理由は、世の中のお金を増やして不況からの回復を図るためになる。従ってこれから好況に向かっていく、つまり金利が上がっていく時は、今のままの利子率を享受するほうが断然有利となるのだ。前に書いたように固定の場合少しリスクはあるが、それでも変動を選ばなかったのもこのためだ。そしてそれが少しでも長く続くようにと長期を選んだ。

しかしその予想は当たらなかった。10年前からこれまでの間、金利が上がる事はほとんどなく、金利は下がっていく一方だったのだ。結局、変動金利にしておいたほうが有利だったという事になった。

そして迎えた満期。最近よく言われていたのが、ゼロ金利政策の解除だ。ゼロ金利政策とは金利をゼロにするという事で、結局不況期に政府が金利を下げる事を表す。それが解除されたのだから、金利が上がってくる、すなわち景気が回復している事を表しているのだ。

こう考えると、これから徐々に景気は回復していき、金利は上昇していくと考えられる。従って今一番有利なのは長期固定金利だという事になるだろう。結局私の両親もそう決めたそうだ。

今回金利について調べてみて、これらはどこかマネーゲームの様だと思った。そして普段身の回りの商品を買う時と同じで、知識が損得を大きく左右する。金融商品というが、まさにその通りである。何も知らないままだと大きな損につながる。私たち消費者も賢くなる必要があると思う。